

在宅医療連携拠点事業 当院での小児モデルについて

埼玉医科大学総合医療センター

田村 正徳

事例A君 12歳男児

難治性てんかん、重症心身障害児、在宅人工呼吸器

- 【既往歴】両親は児がてんかん発症後離婚し、母の実家(埼玉県川越市)にて生活。
- 生後8カ月に痙攣重積にて当院。人工呼吸器管理されたが、痙攣頻発するため、国立精神神経センター受診し、migrating partial seizure in infancyと診断された。2002年4月まで同院入院。2005年5月喉頭気管分離術施行。在宅酸素療法にて、退院。
- 【生活歴】精神神経センターへ通院しながら地元の児童園、特別支援学校へ通園・通学していた。移送は母親一人で行ない、酸素療法、注入、吸引のため学校へ付き添っていた。ヘルパーの介入はなし。日常生活用具として介護用ベッドや吸引器、パルスオキシメーターなどを購入。適宜、バギーカーなどを作成購入。
- 3歳時から訪問看護を週1回利用。学校からの帰宅後に看護師が訪問し、胃チューブ交換、気管切開カニューレ交換補佐、吸引・吸入、注入、留守番などの形で支援していた。
- 2か月毎に国立精神神経センターへ在宅支援入院していた。
- 【現病歴】12歳、母親が不在時に気管切開カニューレがはずれ、気道閉塞、心肺停止に至った。当院へ搬送され、救命されるも、自発呼吸消失、人工呼吸器管理となった。1ヶ月後に在宅人工呼吸器導入目的で精神神経センターへ転院。胃瘻造設し、在宅医療への移行準備が始まった。

相談支援内容

- 抜管事故が母親の不在時におこったため、**母親の不安、自信喪失、恐怖感**が強くなり、自宅退院へためらう様子があった。そのため、**精神神経センターのMSWより当院訪問看護Stへ退院支援の依頼**があり、退院へ向けて準備を始めることとなった。
- 支援ステップを下記のとおりを設定。
- 1. 1回目：退院前カンファレンス（11月）
- 2. 院内試験外泊
- 3. 2回目：退院前カンファレンス
- 4. 一時外泊（1泊2日）
- 5. 3回目：退院前カンファレンス
- 6. 一時外泊（2泊3日）
- 7. 退院（1/31予定）

退院支援に向けて

- カンファレンス参加者は、母親・主治医・MSW・病棟看護師・訪問介護士・訪問看護師の6名から始まった。
- 先方のMSWに対して障害者相談支援専門員の介入をすすめ、2回目からは相談支援専門員と川越市障害福祉担当者が同席。
- 呼吸器やカフアシストの勉強会も含め、その他、入浴サービスや送迎などの相談となった。
- 一時外泊では、帰宅時間に合わせ、自宅へ関係者集合。呼吸器のセッティングや環境、母親の医療的手技を確認した。
- 3回目のカンファレンスでは、関係者全員(13名)が精神神経センターに集合。送迎の問題、入浴の問題、計画作成を相談支援専門員に依頼。今後は、レスパイト入院を精神神経センターとカルガモの家(埼玉医科大学総合医療センター隣接して4月より開所)とでカバーする予定。

考察

- 都内病院のMSWが把握する情報には限界があった。
- この事例では、行政への働きかけ方などの助言が有用であった。
- また、訪問入浴サービスは障害者サービス事業の一つで対象が18歳以上と規定されているため、電話依頼ではサービス提供を断られていた。しかし特例があることをMSWに伝えたところ、訪問入浴サービスを受けられることとなった。
- また、相談支援専門員を早急にコーディネーター役として介入していただくように勧めた。
- 地域特有のコミュニティ育成が進んでいる。それを知る実動者といかに連携を持てるかによって、相談事業の結果は大きく変わることが予測される。
- 拠点事業としては、今後関わるケース一つ一つに対して、幅広い人脈づくりと情報収集が重要と思われた。

<I> 小児在宅医療の特殊性(1)

- 対象者が少なく**広域に分布**（埼玉県では人口700万人中約600人）。
- 在宅医、訪問看護師、介護士、訪問リハビリのいずれの職種も、**重症小児に慣れていない**。
- **ケアマネージャー**がない。相談支援専門員は高度医療に疎い。
- 病院主治医がケアマネジメントしていることが多いが、**病院医は福祉制度に疎い**。

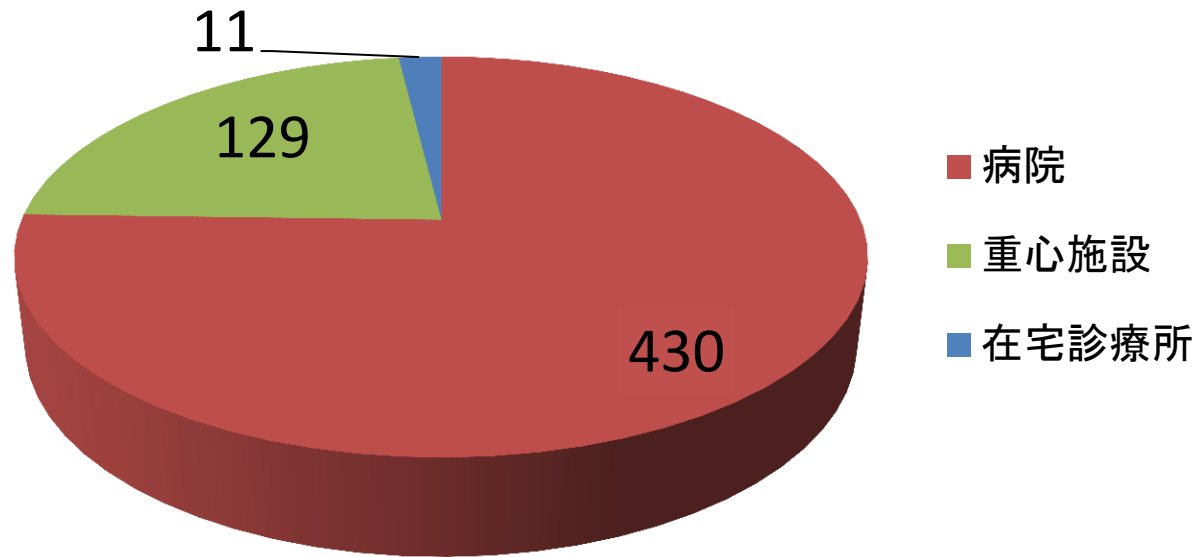
→**コ-ディネイターを含めた小児在宅医療支援に役立つ人材の育成が急務**

埼玉県の二次保健医療圏(10ヶ所)



人口は7医療圏に集中している。

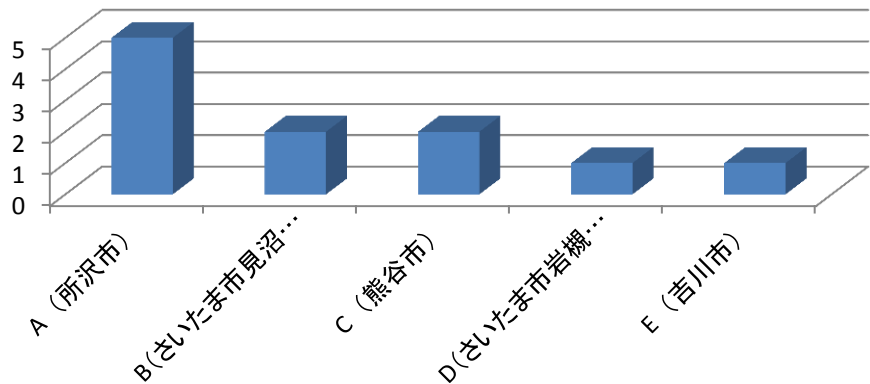
埼玉県病院・診療所への アンケート調査（奈倉ら、2011年4月）



埼玉県における超・準超重症児
は総計570人

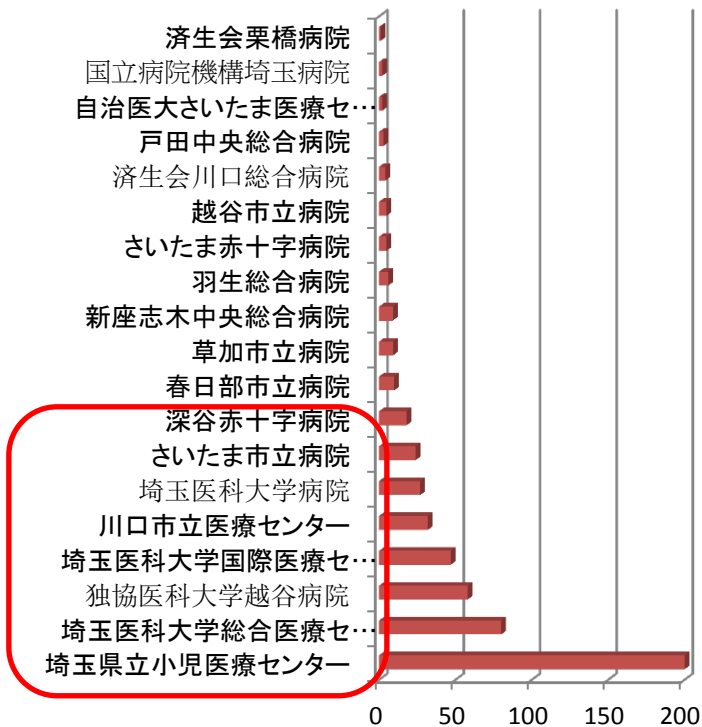
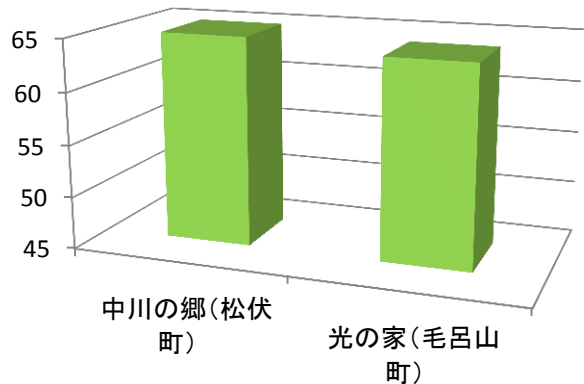
⇒ 20歳未満1000人あたり0.4（全国平均は0.3）

在宅療養支援診療所が診ている重症児： 5施設、11人



病院が診ている重症児： 19施設、430人

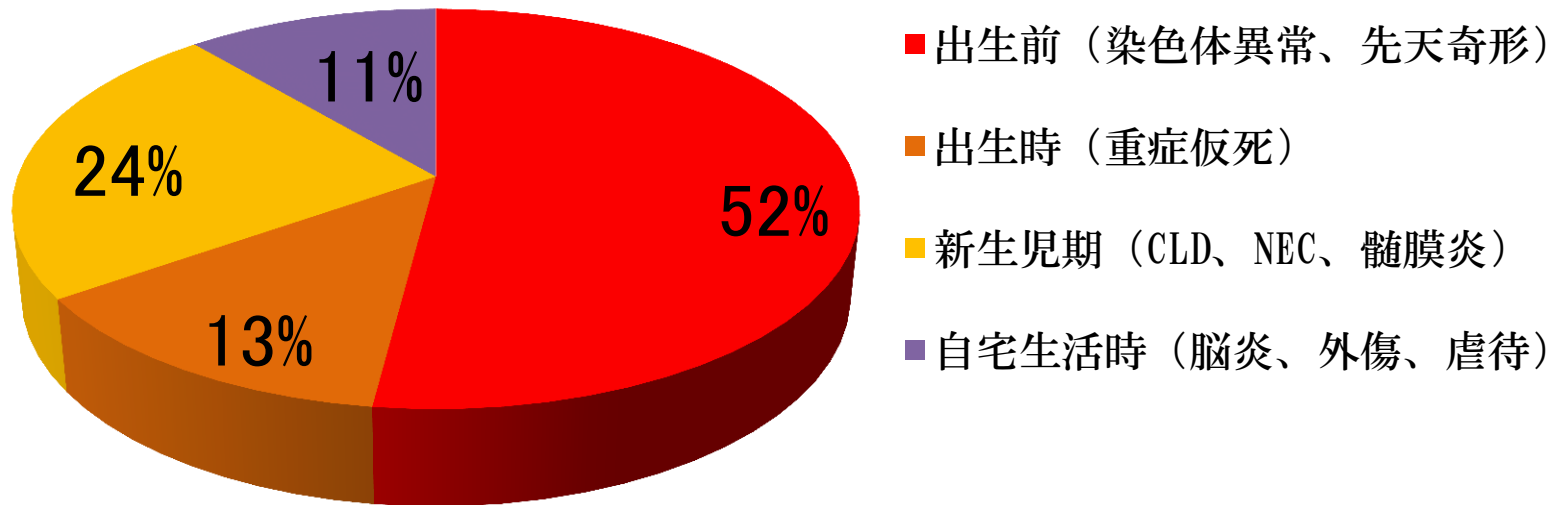
重心施設が診ている重症児： 2施設、129人



小児の特殊性2

- NICU出身者が多い。
- 病態が成人とは全く異なる。
- 患者は医療依存度及び重症度が高い。
- 患者の個別性が高く、病態が把握しにくい。
- 介護の負担が母親独りに集中しやすい。
- 患者の成長・発達・療育・教育の視点が必要。
- 患者家族が高度なレベルのケアを期待している。
- 終末期に関して、踏み込んだ話をしにくい。

570名の埼玉県内の重症児の 基礎疾患の発生時期



89%は、新生児期に障害が確認。

（2011年4月アンケート調査）

2007年小児科学会倫理委員会では67%

＜Ⅱ＞2012年度小児モデル拠点事業 で取り組んだ活動内容

1. 対象に小児を含める訪問看護ステーション、訪問介護事業所に対してアンケート調査。
2. 小児在宅関連機関の資源マップ作り。
3. 資源が不十分な患者へのアウトリーチ。
4. 地域との連携。
5. 3ヶ月毎に埼玉県の小児在宅医療支援研究会を開催しながら参加者のメーリングリスト構築。
6. 県内で人材育成のため各種研修会を開催した。
7. 特別支援学校等の教育機関への相談支援。

1. アンケート調査

- 2012年8月に埼玉県の在宅医療関連施設に対してアンケート調査を行った。
- 対象：病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、訪問介護事業所
- 質問項目：
 - 小児患者を受け入れてくれますか？
 - そのための条件は（年齢、体重など）？
 - HPに公開して良いですか？

訪問看護ステーション

- 総数148箇所中、回答があったのは108(73%)
 - 小児を受け入れる: 39/108(36%)
 - 現時点では受け入れ困難: 52/108(48%)
- 受け入るための条件:
 - 人材が揃ったら受け入れる 45/52(86%)
 - 緊急時に受け入れてくれれば 36/52(69%)
 - 困ったときに助けてくれれば 27/52(52%)

訪問介護事業所

- 総数1432箇所中、児童（障害児）を対象にしている272事業所にアンケートを送付。回答があったのは、121（44%）

小児を受け入れる： 35/121（29%）

現時点では受け入れ困難： 53/121（44%）

- 受け入れる条件：

人材が揃ったら： 35/53（66%）

知識や技術を習得できれば： 29/53（55%）

2. マップ作り

- アンケートで、小児患者の受入れ可とHPに公示してよいかどうかを質問した。可の回答を得た施設の場所を、Googleマップにプロットした。

病院	9
重心施設	2
在宅療養支援診療所	17
訪問看護ステーション	40
訪問介護事業所	32
児童相談所	8
保健所	15

日本小児在宅医療支援研究会HP

<http://www.happy-at-home.org/>

「乳幼児の在宅医療を支援する」 x KENKYUUKAI.jp 管理機 x 第一回日本小児在宅医療研究会 x

← → ↺ 家 www.happy-at-home.org/index.cfm ☆ 三

乳幼児の在宅医療を支援するサイト
～日本小児在宅医療支援研究会～

TOPページへ | お問い合わせ



小さな命と家族のために

ここは、高度な医療的ケアを必要としながら
病院を退院する赤ちゃんをご家族が
ご自宅や地域での生活に順調に移行できる
ように支援するために、必要な課題を議論し
解決するためのサイトです

医療的ケアを必要とする乳幼児のための在宅支援研究会

トピックス・ニュース
2012/10/30
「第2回日本小児在宅医療支援研究会」を開催致しまし
た

2011/09/27
在宅支援マニュアルの一部を変更しました。

2011/09/25
栄養管理マニュアル一部を変更しました。

2011/09/20
サイトのデザインを変更しました。

研究会のイメージ

医師 × 地域

赤ちゃんの生活が順調に移行

Ameba f
最終更新日:2013/01/06
TOPページ・代表挨拶
活動報告
埼玉県小児在宅医療支
援研究会
在宅支援マニュアル
栄養管理マニュアル
研究報告書

16:40
2013/01/06

在宅資源マップと エクセルファイル

Internet Explorer Home Page x 設定 x 第一回日本小児在宅医療 x 「乳幼児の在宅医療を支」 x KENKYUUKAI.jp 管理機 x

www.happy-at-home.org/2.cfm



最終更新日: 2013/01/28

[TOPページ・代表挨拶](#)

[活動内容](#)

[埼玉県小児在宅医療支援研究会](#)

[在宅支援マニュアル](#)

[栄養管理マニュアル](#)

[研究報告書](#)

[関連サイトリンク集](#)

[研究者一覧](#)

[運営委員一覧](#)

[プライバシー](#)

[お問い合わせ](#)

埼玉県小児在宅医療支援研究会

第8回: 2013年2月20日	北海道療育園 林 時伸先生 「過疎遠隔地域に居住する重症心身障がい児者とその家族への支援」
第7回: 2012年11月28日	東北大学小児科 田中総一郎先生 「災害時に備えた小児在宅医療支援活動」
第6回: 2012年9月12日	埼玉県立小児医療センターMSW 平野朋美先生 「MSWに何ができるか〜小児在宅医療と福祉をつなぐシステムを作るために」
第5回: 2012年6月14日	訪問看護ステーションそら 梶原厚子先生 「赤ちゃんの成長に寄り添う訪問看護」
第4回: 2012年3月14日	宮田小児科 宮田章子先生 「小児在宅医療を身近に見て感じて」
第3回: 2011年12月22日	東京小児療育病院 奈須康子先生 「地域で暮らす〜新生児フォローアップと在宅重心療育支援システムを考える」
第2回: 2011年7月29日	済生会川口総合病院 大山昇一先生 「地域の一般小児科からみた小児在宅医療」
第1回: 2011年5月11日	ティディベアクリニック 廣野日善先生 「重症児の在宅支援」

2013
0128

Google™

[埼玉県小児在宅ネットワーク - 埼玉県小児在宅ネットワーク地図](#)

[埼玉県小児在宅ネットワーク施設の詳細\(エクセルファイル\)](#)

<https://maps.google.co.jp/maps/ms?msid=203938964602778158025.0004a08b51e3d2660afd6&msa=0&ll=36.001341,139.441223&spn=0.555497,1.018982>



自宅の近くにある医療施設を 探すことができる。

Google Maps interface showing a map of Saitama City and surrounding areas. The map displays various medical facilities marked with green pins, including hospitals, clinics, and nursing homes. The interface includes a search bar, navigation controls, and a list of nearby medical facilities on the left side.

共同編集

埼玉県の小児在宅医療ネットワーク

埼玉県の中に点在する中核病院、重心施設、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションの所在地を地図上にプロットし、在宅医療が必要な小児にとっての有益な情報ツールとする。

※各施設に記載してある診療条件・受け入れ条件等はいくまで目安とお考え下さい。実際に御利用いただく際は各施設へ必ずお問い合わせください。

一般公開・共同編集者 9人・表示回数 1,792
2011年4月10日作成・投稿: Michiaki・1分前更新
この地図に評価を付ける・コメントを投稿・KML

埼玉医科大学総合医療センター
H-川越-1 重症の障がいをもつ子に対する診療: 基本的に可 〒350-8844 埼玉県川越市鶴田1981 TEL: 049-228-3400(代)

埼玉医科大学病院
H-入間郡-1 重症の障がいをもつ子に対する診療: 基本的に可 〒350-0451 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38 TEL: 049-276-1111(代)

春日部市立病院
H-春日部-1 重症の障がいを持つ子に対する診療: 基本的に可 〒344-8588 埼玉県春日部市中央7-2-1 TEL: 048-735-1261(代)

さいたま市立病院
H-さいたま-1 重症の障がいを持つ子に対する診療: 基本的に可 〒336-8522 埼玉県さいたま市緑区三宅2460 TEL: 048-873-4111(代)

戸田中央総合病院

Googleマップの使い方

- マーカーは医療施設毎に色分けされている。
- それぞれの医療施設に関する情報は、Google mapのマーカーを選択するとポップされる。
- さらに詳しい情報は、添付されているExcelファイルから符号で参照できる。



H：病院（9施設）



C：診療所（17施設）



I：医療型障がい児入所施設（2施設）



N：訪問看護ステーション（39施設）



K：訪問介護事業所（34施設）



J：児童相談所（8施設）



P：保健所（8施設）

Excelファイルでさらに検索

ウェブサイト添付されたExcelファイルを開けば、**小児の受入条件**が示されているので、当該患者を受け入れてもらえるかどうかを確認できる。

[illegible]

3. アウトリーチ

冒頭の事例のように、
当院の患者に限らず、在宅医療資源の
利用が不十分な地域の
小児患者に対して、
助言や支援を行っている(12例)。

1	生年月日	平成12年生まれ 12歳	関連機関
	住所	川越市鹿飼	主治医：国立精神神経医療研究センター病院（須貝Dr.） 通院・入院歴：同上ほか、当院あり 県立ひばりが丘特別支援学校（通学）
	疾患	てんかん性脳症 弛緩性四肢麻痺	
	大島分類	1	特別管理
	訪問開始日	平成14年9月より。現在入院中、再開予定あり。	
	看護内容	吸引、胃チューブ・気管カニューレ交換 注入、オムツ交換、母親外出中留守番など	人工呼吸器（気切）トリロジー、胃瘻、吸引、カフアシスト、膀胱内留置カテーテル
	その他	現在、国立精神神経医療研究センター病院入院中。H25年1月、退院準備中。	
2	生年月日	平成18年生まれ 6歳	関連機関
	住所	川越市石原町	主治医：県立小児医療センター（川端Dr.） 通院：同上ほか、さとうクリニック、 市立ひかり児童園（通園）
	疾患	先天性ミオパチー	
	大島分類	9～16 スコア：26点	特別管理
	訪問開始日	平成21年11月より、継続中。	
	看護内容	吸引、四肢リハビリ、スクイーミング、遊び、母親外出時留守番	人工呼吸器（気切）バビー2、液体酸素、 胃瘻、吸引、モニター
	その他		
3	生年月日	平成21年生まれ 3歳	関連機関
	住所	川越市南通町	主治医：県立小児医療センター（田中Dr.） 通院・入院歴：同上ほか、当院、心身障害児総合医療療育センター、黒川医院 市立ひかり児童園（通園） 相談支援員（山内氏）、ヘルパー、ボランティアナース（ねがいの家）、訪問看護2か所
	疾患	新生児仮死、脳性まひ、知的障害	
	大島分類	4	特別管理
	訪問開始日	平成22年2月より、継続中。	
	看護内容	気管カニューレ交換、吸引、入浴補佐、吸入、注入、遊び、散歩、リハビリ訓練 療育相談ほか	気管切開、在宅酸素濃縮器、胃瘻、吸引、
	その他		

4. 地域との連携(1)

川越市自立支援協議会への参加

- 2012年12月21日に川越市自立支援協議会くらし部会に小児科医(奈倉)、病棟師長(安藤)、特定医療看護師(小泉)が参加。
- 大学の福祉学科教授、開業医、訪問看護St、福祉施設、相談支援専門員などで総勢20名だが、大学関連病院からの参加は初めて。
- 地域連携の強化をお願いし、2013年春開所の重心施設「カルガモの家」の概要を説明した。
- 大学関連病院との連携できることを非常に喜ばれた。
- さらに、急性期医療、レスパイト、福祉職の医療的ケア研修に対する期待が大きかった。

4. 地域との連携(2)

ハッピースマイルの会

- 当院NICU出身の極低出生体重児と家族を対象に、子育て支援を目的としたイベントを毎年開催している。
- 2012年10月23日に定例のハッピースマイルの会を開催(参加者187名)。
- この場で、重症児の在宅医療に関する講義を行い、小児在宅医療の啓発に努めた。

5. 埼玉県小児在宅医療支援研究会

- 2011年5月から3ヶ月毎に埼玉県小児在宅医療支援研究会を開催。
- 2011年度は医師中心であったが、医師だけでは解決がつかないことが多く、暗い雰囲気であった。
- 2012年度からは行政を含む多職種に積極的に声をかけ、生活支援という明るい展望のもとに、積極的に取り組めるようになった。

2011年度

埼玉県小児在宅医療支援研究会

- 第1回 2011.5.11 大宮ソニックシティ 60名
- 第2回 2011.7.29 大宮ソニックシティ 37名
- 第3回 2011.12.22 埼玉県県民健康センター 40名
- 第4回 2012.3.14 大宮ソニックシティ 37名

ティディベアクリニック 廣野日善先生

「重症児の在宅支援」

済生会川口総合病院 大山昇一先生

「地域の一般小児科からみた小児在宅医療」

東京小児療育病院 奈須康子先生

「地域で暮らす」

～新生児フォローアップと在宅重心療育支援システムを考える

宮田小児科 宮田章子先生

「小児在宅医療を身近に見て感じて」

- 症例提示をして解決策を議論/医療機関での情報交換

2012年度

埼玉県小児在宅医療支援研究会

- 第5回 2012.6.14 大宮ソニックシティ 85名
- 第6回 2012.9.12 大宮ソニックシティ 61名
- 第7回 2012.11.28 大宮ソニックシティ 57名
- 第8回 2013.2.20 大宮ソニックシティ 52名

訪問看護ステーションそら 梶原厚子先生

「赤ちゃんの成長に寄り添う訪問看護」

埼玉県立小児医療センターMSW 平野朋美先生

「MSWに何ができるか」

「小児在宅医療と福祉をつなぐシステムを造るために」

東北大学小児科 田中総一郎先生

「災害時に備えた小児在宅医療支援活動」

北海道療育園 林 時仲先生

「過疎遠隔地域に居住する

重症心身障がい児者とその家族への支援」

- 多職種に呼びかけ

2012年度 埼玉県小児在宅 医療 支援研究会

日時

2012年
11月28日
(水)
19:00～21:00

会場

大宮ソニックシティ
会議室 602号室
〒330-8669
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

会費

1000円
にて軽食と飲み物を
用意しております。

第7回

埼玉県小児在宅医療支援研究会

プログラム

19:00▶▶▶世話人会 (オブザーバー参加可)
19:30▶▶▶症例検討会 (症例検討募集中 連絡: 森脇まで)
20:00▶▶▶特別講演
東北大学小児科 田中 統一郎先生
「災害時に備えた小児在宅医療支援活動」
20:40▶▶▶総合討論

事務局

埼玉医科大学総合医療センター小児科
連絡責任者: 森脇 浩一
〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1961
tel: 049-228-3550 fax: 049-226-1424
e-mail: kmoriwa@saitama-med.ac.jp
http://shounizaitakusien.kenkyukai.jp/
http://www.happy-at-home.org/

第5回埼玉県小児在宅医療支援研究会



日時

・2012年6月14日 (木) 19:00～21:00 (仮)

会場

・大宮ソニックシティ 会議室602号室
・〒330-8669埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

参加費

・1000円にて軽食と飲み物を準備しております。

【プログラム予定】

19:00 世話人会 (オブザーバー参加可)
19:30 症例検討会 (希望の症例があれば事務局までご連絡下さい)
20:00 特別講演

訪問看護ステーションそら開設準備室室長

梶原厚子先生

『赤ちゃんの成長に寄り添う訪問看護』

20:40 総合討論

【事務局】埼玉医科大学総合医療センター小児科
連絡責任者: 森脇 浩一
〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1961
tel: 049-228-3550, fax: 049-226-1424
e-mail: kmoriwa@saitama-med.ac.jp

第6回

埼玉県小児在宅医療支援研究会



日時

2012年9月12日(水)
19:00～21:00

会場

大宮ソニックシティ
会議室 603号室

〒330-8669
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

会費

1000円
にて軽食と
飲み物を
用意して
おります。

事務局

▶▶▶プログラム

19:00 世話人会 (オブザーバー参加可)

19:30 症例検討会

20:00 特別講演

埼玉県立小児医療センター医療ソーシャルワーカー
平野朋美先生

「MSWは何か
～小児在宅医療と福祉をつなぐ
システムを造るために」

20:40 総合討論

埼玉医科大学
総合医療センター小児科
連絡責任者: 森脇 浩一
〒350-8550
埼玉県川越市鴨田1961
tel: 049-228-3550 fax: 049-226-1424
e-mail: kmoriwa@saitama-med.ac.jp
http://shounizaitakusien.kenkyukai.jp/
http://www.happy-at-home.org/

第8回埼玉県小児在宅医療支援研究会

会場

大宮ソニックシティ
会議室 906号室

〒330-8669
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

会費

1000円
にて軽食と飲み物を
用意しております。

日時

2013年
2月20日(水)
19:00～21:00

プログラム

19:00 世話人会 (オブザーバー参加可)

19:30 症例検討会 (症例検討募集中)

{ 検討したい症例がございましたら 2/10 までに }
事務局にご連絡ください。

20:00 特別講演

重症心身障がい児 (者) 施設 北海道療育園 林 時仲先生

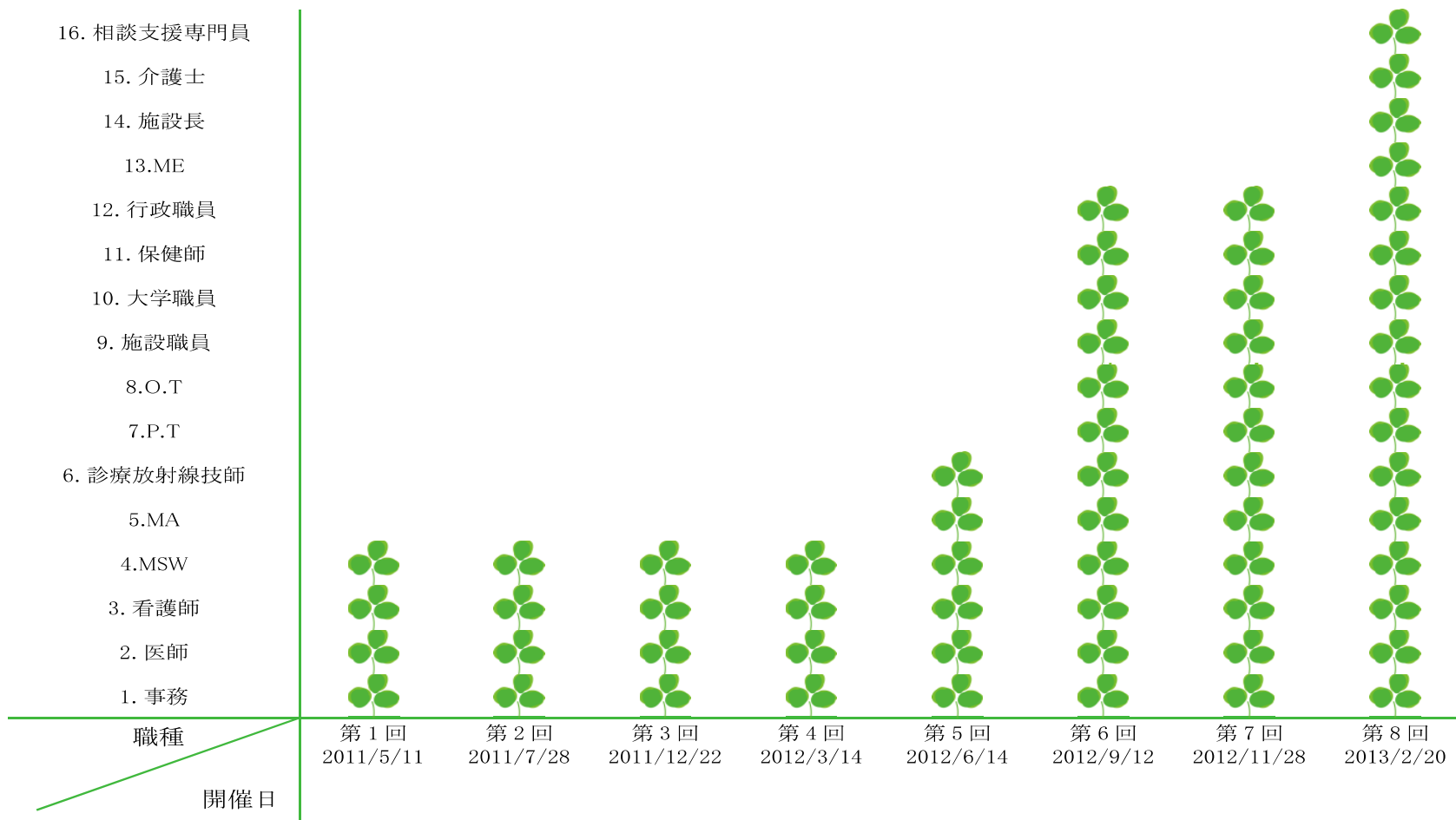
「過疎遠隔地域に居住する
重症心身障がい児者とその家族への支援」

20:45 総合討論

埼玉医科大学総合医療センター小児科
連絡責任者: 森脇 浩一
〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1961
tel: 049-228-3550 fax: 049-226-1424
e-mail: kmoriwa@saitama-med.ac.jp
http://shounizaitakusien.kenkyukai.jp/
http://www.happy-at-home.org/



多職種連携の課題に対する解決策の抽出



2011年5月11日、第1回開催以来、2013年2月20日で第8回を終えたが、当初は医師中心で事務方も含め4職種であったが、会を重ねる度に多職種に広がり、現在までに行政担当者も含め、**16職種**の参加を得ている。

6.人材育成

1. **訪問看護師対象**の研修会を開催(大宮ソニックシティ:osc)
(前田班プログラム活用:2013/1-3月に計5回)
受講生:毎回12施設から2名ずつ24名
2. **多職種対象**の研修会を開催(2013/2/24:osc)
受講生24名
3. **医師対象の実技研修会**を開催(2013/3/20:osc)
(赤ちゃん成育ネットワーク、埼玉県小児科医会と連携)
受講生60名
4. 県下の特別支援学校や療育センターで、
看護師・保健担当教師対象に医療的ケア指導
(県下施設へ講師派遣:延べ11回)
5. **保健師対象**の総合母子医療センター研修会
(2012/12/20-21、2013/1/10-11:院内)受講生42名
「NICU長期入院児の在宅医療支援の重要性」の講義

小児在宅医療に従事する人材育成

2012年 11月8日(木)・9日(金) 2013年 1月10日(木)・11日(金)	保健師対象の研修会を開催 講義に「NICU長期入院児の在宅医療支援の重要性」を入れる
2013年 1月27日(日) 2月2日(土) 3月2日(土)・ 9日(土)・16日(土)	訪問看護師対象の研修会 5回シリーズ開催
2013年 2月24日(日)	多職種対象のワークショップ開催
2012年10月28日(日) 第2回 2013年3月20日(祝)	医師対象の ワークショップと 実技講習会開催
特別支援学校や療育センターに出向き医療ケアを指導	



在宅医療連携拠点事業主催

小児在宅訪問看護講習会

平成25年1/27(日)、2/2日(土)、3/2(土)、3/9(土)、3/16(土)の全5回

10:00～17:00

会場 ソニックシティ 会議室

さいたま市大宮区桜木町1-7-5

大宮駅西口徒歩5分

在宅医療を必要とする子どもと家族のしあわせを
支援するために地域連携を進めます

講習内容

- 1/27(日) 家族看護 埼玉の障害児施策 母子保健 相談支援専門員の役割
- 2/2(土) 小児看護「元気な子どもの生活」 子どものスキントラブル
- 3/2(土) 小児看護「子どものフィジカルアセスメント」
- 3/9(土) 退院支援 子どものリハビリの実際 子どもの発達・感覚統合・遊び
埼玉県療育施設を知る
- 3/16(土) 小児看護「子どものフィジカルアセスメント」

参加費無料 昼食はご用意いたします。

参加されるかたは全日程の参加になります。参加人数には限りがあります。

裏面FAXまたはmailにて12/17(月)までにお申し込みください。

在宅医療連携拠点事業アンケート 調査にご協力お願いいたします。

連絡先：埼玉医科大学総合医療センター小児教室

電子メール：zaitaku@saitama-med.ac.jp FAX：049-226-1424

安藤 てる子



小児在宅医療支援のための 多職種連携研修会

日時

2013年
2月24日(日)
10:00~15:00

場所

大宮ソニック
シティビル棟
805号室

費用

1000円

子どもの在宅医療は、成人以上に難しいと言われています。

しかし、多職種が連携し子どもと家族の生活を支援することができれば、子どもとご家族に大きな幸せをもたらすことができます。

今回、多職種が連携するための小児在宅医療の研修会を企画しました。多くの方のご応募をお待ちしております。

応募方法：FAXにてお申し込みください。

fax: 049-226-1424

お問い合わせ

e-mail: zaitaku@saitama-med.ac.jp

tel: 049-228-3550

対象：

病院勤務小児科医師、
在宅医療支援診療所勤務医師、
開業医、訪問看護師、保健師、理学療法士、
ソーシャルワーカー、介護士、特別支援学校教員、
保育士、訪問栄養士、その他

人数：24名まで

(職種により人数調整させていただくことがあります)



〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981 埼玉医科大学総合医療センター小児科

小児在宅医療支援研究会事務局：奈倉道明

第2回 小児在宅医療 実技講習会

日時

2013年3月20日
(春分の日(水))
10:30~16:30

大宮ソニックシティビル

6階会議室

601~604

対象：小児在宅医療を
目指す医師

場所

10:30-10:35 主催者代表挨拶 田村正徳(埼玉医科大学総合医療センター小児科)

10:35-11:10 講義1 ①NICUと開業医の連携について
②在宅酸素療法
講師：渡部晋一(倉敷中央病院小児科)

11:10-11:30 講義2 胃瘻の管理
講師：田中裕次郎(埼玉県立小児医療センター小児外科)

11:30-12:10 実習1 在宅酸素と胃瘻に関する実習

12:10-12:30 講義3 小児在宅医療における診療報酬請求
講師：宮田章子(さいわいこどもクリニック)

12:30-13:00 休憩

13:00-13:30 講義4 在宅人工呼吸器
講師：松井晃(埼玉県立小児医療センター医療機器職員研修担当)

13:30-14:00 講義5 気管切開カニューレ
講師：堤剛(埼玉医科大学総合医療センター耳鼻咽喉科)

14:00-15:00 実習2 在宅人工呼吸器と気管切開カニューレの実習

15:00-16:00 特別講演「小児在宅医療の動向」
講師：前田浩利(あおぞら診療所墨田)

16:00-16:30 質疑応答

プログラム

主催

埼玉医科大学
総合医療センター小児科
在宅医療連携拠点事業

昨今、小児の在宅医療が注目されています。
そこで、小児の在宅医療に興味を持たれている医師を対象に、
小児在宅医療の基礎知識と基本技術の習得を目的とした
講習会を開催いたします。
多数のご参加をお待ちしております。

共催

日本小児在宅医療
支援研究会
赤ちゃん成育
ネットワーク
新生児医療連絡会

7. 特別支援学校への相談支援

当院小児科講師高田栄子が、特別支援学校を訪問し、医療的ケアの指導を行っている。

- 埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校への訪問指導 年8回
- 埼玉県坂戸ろう学園への訪問指導 年3回

<Ⅲ> 小児モデルの連携対象

- 県下のNICUや地域中核小児医療機関
- 県の小児を対象に含める訪問看護ステーション
- 県の小児を対象に含める訪問介護事業所
- 地域の相談支援専門員、自立支援協議会
- 地域の在宅療養支援診療所
- 地域の療育センター
- 地域の特別支援学校
- 地域の医師会（川越医師会、埼玉県小児科医会）
- 地域の保健師（保健所、保健センター）
- 県のリハビリ士会
- 県の児童相談所

＜Ⅳ＞小児に特化した拠点事業を展開していく上での提言(1)

1. 県全体のレベルで取り組む（ネットワーク構築と定期的情報交換会）。
2. ウェブサイトなどのICTを利用して情報を発信。
3. 小児救急受け入れ体制とレスパイトの保証
4. 地域の特別支援学校、療育センターとの連携。
5. 在宅医、訪問看護師、介護士などの人材育成と病院勤務医師の意識変革（ワークショップ）。
6. 保健師 相談支援専門員を活用

提言 (2)

1. NICUや小児科入院中からの在宅医療支援の準備。
2. 急性期対応の充実。
3. 地域の診療所、療育センターとの連携とレスパイトの保証。
4. 地域の患者に対するアウトリーチ。

<V>PRしたい内容 (1)

- ウェブサイトの活用

(<http://www.happy-at-home.org/index.cfm>)

- 埼玉県の在宅医療資源マップの公開

(<https://maps.google.co.jp/maps/ms?msid=203938964602778158025.0004a08b51e3d2660afd6&msa=0&ll=36.001341,139.441223&spn=0.555497,1.018982>)

- 3ヶ月毎の埼玉県小児在宅医療支援研究会
- 地域の医療施設、川越市自立支援協議会、保健所との連携。
- **多彩な研修会**を企画開催し、好評を得ている(対象:**医師、看護師、保健師、多職種**)。
- 県下の特別支援学校や療育センターでの**医療的ケア指導**(県下各施設へ講師派遣)
- ハッピースマイルの会(NICU出身者の会)において、在宅医療に関する一般市民への啓発。

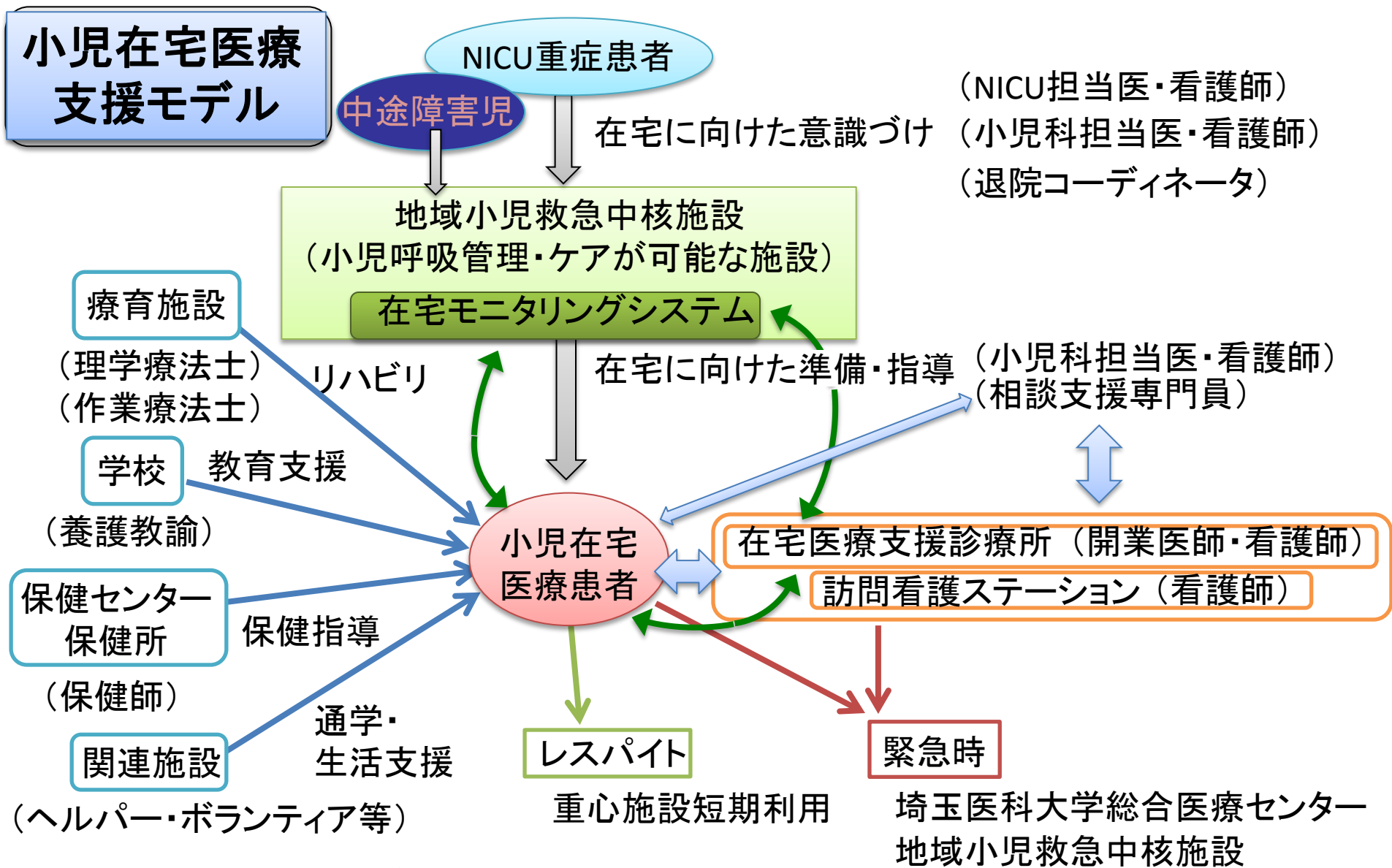
PRしたい内容 (2)

- 出生早期の段階で在宅医療を視野に入れたケアや関わりを確立させている。
- 当院の365日24時間小児救急医療体制を活用。
- 地域の診療所や訪問看護Stに積極的に協力を依頼。
- 埼玉医科大学本院に隣接した医療型障害児者入所施設「光の家」と連携してリハビリやレスパイトを依頼。
- 2013年4月から当院に隣接する「カルガモの家」でレスパイトや短期入所、リハビリも可能になる。
- 他院の患者も含めて、地域で困っている患者の在宅医療を支援している。

<vi>小児在宅医療の課題と今後の対応策

- 新生児医療・小児救急医療の乏しい人材
 - 成人の在宅医療関係者の有効活用
 - 更なる人材育成：特に医療に詳しい相談支援専門員の育成と活用
- 高度ケアを必要とする児の緊急入院の保障
 - 広域でのネットワークの構築
 - ウェブサイトなどのITCの充実と活用
 - 小児在宅ホームモニタリングシステムの普及
- レスパイトの保証システムの構築
 - 小児医療機関と重心施設の連携

小児在宅医療 支援モデル



・小児在宅医療支援組織および支援システム

＜研究会＞

- ・埼玉県小児在宅医療支援研究会
- ・日本小児在宅医療支援研究会

＜Webとメールリストの活用＞

- ・小児在宅医療支援 Home page
- 世話人・参加者メールリスト

＜医療技術、機器の活用＞

遠隔SpO2モニター解析、応答システムの開発、モデル事業

・小児在宅医療支援には行政の協力が必要